

以官職爲苗字

善右衛門と申もの、亡父之名乘高三と家名に唱へ替、高三善右衛門と名乗差出し相續仕<sup>略</sup>○中  
 嘉永三戌年九月四日宿屋町高三善右衛門印

月行事大和屋松之助印

## 奉行所宛

〔尊卑分脈藤原〕利仁叙用

齋藤號起叙用、依補齋宮頭號齋藤也、

〔尊卑分脈藤原〕景道

依爲加賀介號加藤

〔那須系圖〕資朝

屬源賴義朝臣、本姓之藤原氏、養父姓守部合、守藤稱、其後上洛、依軍忠任主馬首、依之又孫々稱號  
 號首藤

〔寛永諸家系圖傳二百三十三〕伊東

爲憲<sup>略</sup>○中

木工の助の工の字と、藤原の藤の字をあはせて、はじめて工藤と號す。

〔鷺峯文集碑誌〕朝散大夫紀伊權守鍋島君碑并銘

賴平曾孫經資、任太宰少貳、子孫相繼、以少貳爲家號、

〔窓のすさみ追加〕同國○<sup>上</sup>薩<sup>下</sup>左近丞氏と云姓有<sup>略</sup>

〔嚴島圖會三〕棚守將監屋敷

當家は大宮の棚守職にして、舞方を兼司り、往々從五位下に叙せることありき、本の氏は佐伯にて、苗字を野坂と呼けるに、いつのころよりか、その職名を用ひける。